

Ⅲ 今月のトピックス

【増加する飢餓人口】

国際連合食糧農業機関（FAO）は、世界的な食料価格の高騰の影響を受けて、2007年の世界の栄養不足人口を推定し、9月17日に発表した。以下は、その際の報告資料から、栄養不足人口の推移等に関する概略を紹介したものである。

1 2007年の世界の栄養不足人口

2007年の世界の栄養不足人口は、9億2,300万人で、2003-05年の8億4,800万人に比べ7,500万人増加しており、FAOでは食料価格の高騰が要因の大半を占めているとしている。

また、2008年には、食料品価格の高騰の継続により、栄養不足人口は更に増加しているとしている。

2 地域別の栄養不足人口の増加

栄養不足人口の地域別増加をみると、アジア・太平洋地域で最も多く4,100万人増加し、次いでサハラ以南のアフリカで2,400万人増加した。

3 世界食料サミット及びミレニアム開発目標の削減計画の進展

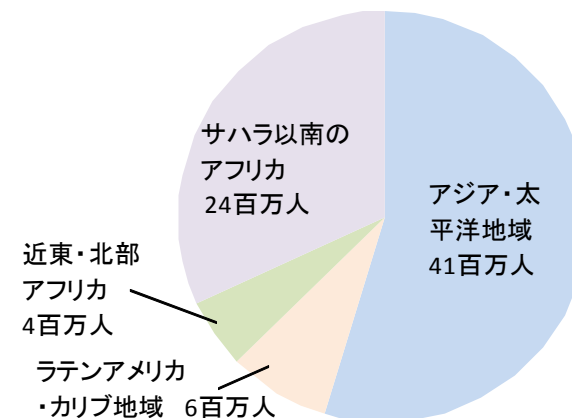
(1) 世界食料サミットの目標：「2015年までに栄養不足人口を半減させる。」

世界の栄養不足人口のうち、開発途上地域に存在するものは、1990-92年の8億2,300万人から、2003-05年には8億3,200万人に増加しており、食料価格高騰以前において、既に栄養不足人口の増加に向けて憂慮すべき長期的傾向が明らかになっていた。さらに2007年には、9億700万人と推定されている。

(2) 国連ミレニアム・サミットのミレニアム開発目標：「2015年までに飢餓に苦しむ人口の割合を1990年の水準の半数に減少させる。」

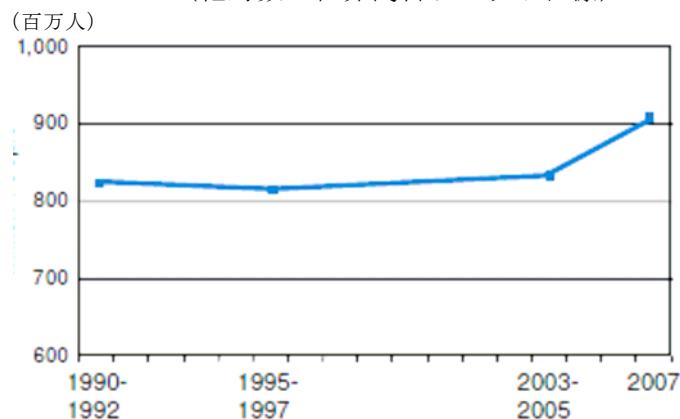
開発途上地域の栄養不足人口の割合を見ると1990-02年の20%から、1995-97年には18%、2003-05年には16%と着実に減少していたが、2007年は17%と10年前と同じ水準まで後退してしまった。

図－1 食料価格高騰の地域別影響
(2007年における栄養不足人口の増加分)



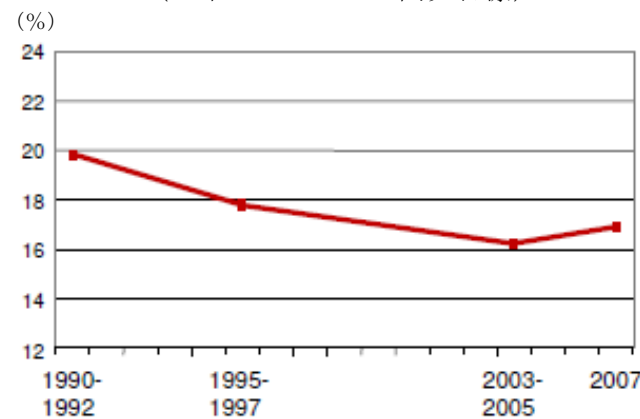
資料：FAO「Briefing paper: Hunger on the rise」

図－2 開発途上地域における栄養不足人口
(絶対数：世界食料サミット目標)



資料：FAO「Briefing paper: Hunger on the rise」

図－3 開発途上地域における栄養不足人口
(比率：ミレニアム開発目標)



資料：FAO「Briefing paper: Hunger on the rise」

※ 上記の詳細は、FAOホームページ：” <http://www.fao.org/newsroom/common/ecg/1000923/en/hungerfigs.pdf> ” から入手できます。

【バイオエタノール生産と畜産飼料】

米国の再生可能燃料協会（RFA）は、9月25日にレポート「FEEDING THE FUTURE：THE ROLE OF THE U.S. ETHANOL INDUSTRY IN FOOD AND FEED PRODUCTION」を公表し、RFAによるバイオエタノールの製造と動物用飼料の生産等に関する分析結果と見解を発表した。

以下は、その際のRFAによるプレスリリースの概略を紹介したものである。

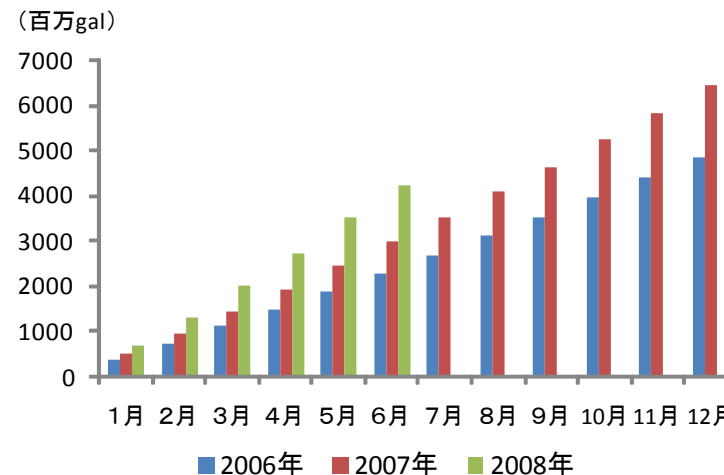
- 1 昨年、米国エタノール業界が供給した飼料^(注)の量は、2,300万トン。これは、米国の家畜に供給された小麦、ソルガム、大麦、オーツ麦の総量（2007/2008年度）の3倍に相当する。あるいは、別の言い方をすれば、米国の4大牛肉生産地であるテキサス州、カンザス州、ネブラスカ州、コロラド州の肉用牛に与えられた飼料の総量に相当する。
- 2 エタノール産業が、エタノールと共に、大量の高たんぱく・高エネルギー飼料を生産していることは、見過ごされがちである。エタノール工場で加工されるとうもろこしのうち、燃料に使われるのはその2/3に過ぎず、残りの1/3は、デイスチラーズ・グレイン、コーン・グルテン、コーン・グルテン・ミールの形で、飼料市場に還流しているのである。
- 3 こうした飼料は、各々のバイオ燃料工場で利用する技術により様々だが、いずれも栄養価が高く、米国内外の畜産向け飼料として、とうもろこしやたんぱく質ミールの代替に益々利用されるようになってきている。実際、2007/2008年度には、100万ブッシェルのとうもろこしがエタノールと共に生産される飼料に代替された。これは、飼料用とうもろこし需要の約15%に相当する量である。
- 4 RFAの予想では、デイスチラーズ・グレイン（最も一般的なエタノールと共に生産される飼料）の輸出は、2008年には400万トンを超える。これは、とうもろこしに換算すれば、1.6億ブッシェルに相当する量である。
- 5 さらに、エタノール生産に使用されるとうもろこしの1/3が飼料市場に還流しているということは、エタノール用として使用されるとうもろこしのネットの量は、大きく異なるということだ。USDAの推計によれば、2008/2009年度にエタノール生産に使用されるとうもろこしは41億ブッシェル（RFAの推計では38億ブッシェル）だが、（飼料となる分を差し引いた）ネットでは、29億ブッシェルとなる。これは、とうもろこしの需要総量の23%に過ぎない。「エタノールが米国のとうもろこし供給量の1/3以上を使っている」という、誤解を招く主張より、ずっと低い。

注： エタノール業界は、エタノールの製造と同時にデイスチラーズ・グレインなどの動物用飼料に用いられる製品も製造している。

※ 上記の詳細は、RFAホームページ：” <http://renewablefuelsassociation.com/e/526433/ewsily/> ” から入手できます。

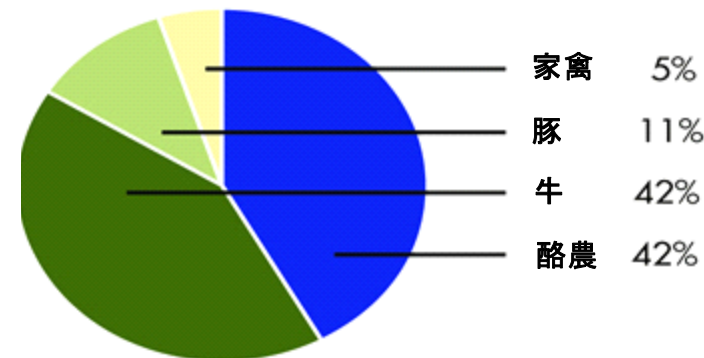
(参考図表)

図－1 米国におけるバイオエタノールの月別積生産量



資料：RFA「Monthly U.S. Fuel Ethanol Production/Demand」

図－2 北アメリカのデイスチラーズ・グレインの需要割合 (2007年)



資料：CHS / RFA